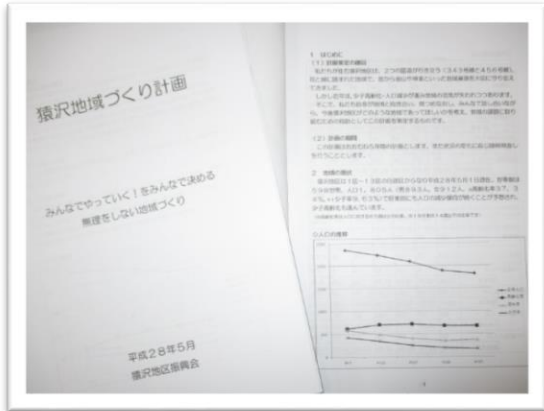


猿沢地区振興会だより

発行元
〒029-0431
大東町猿沢字板倉 57-1
(猿沢市民センター内)
猿沢地区振興会
TEL 76-2220 Fax 71-4001

まちづくり計画(素案)完成!



5月25日(水)7回目のまちづくり策定委員会が開かれ、「まちづくり計画(素案)」の報告と確認が行われました。素案の内容は、地区民の皆さんにご協力いただいたアンケートを基に、地域の現状や課題、将来像と具体的な取り組みが盛り込まれております。

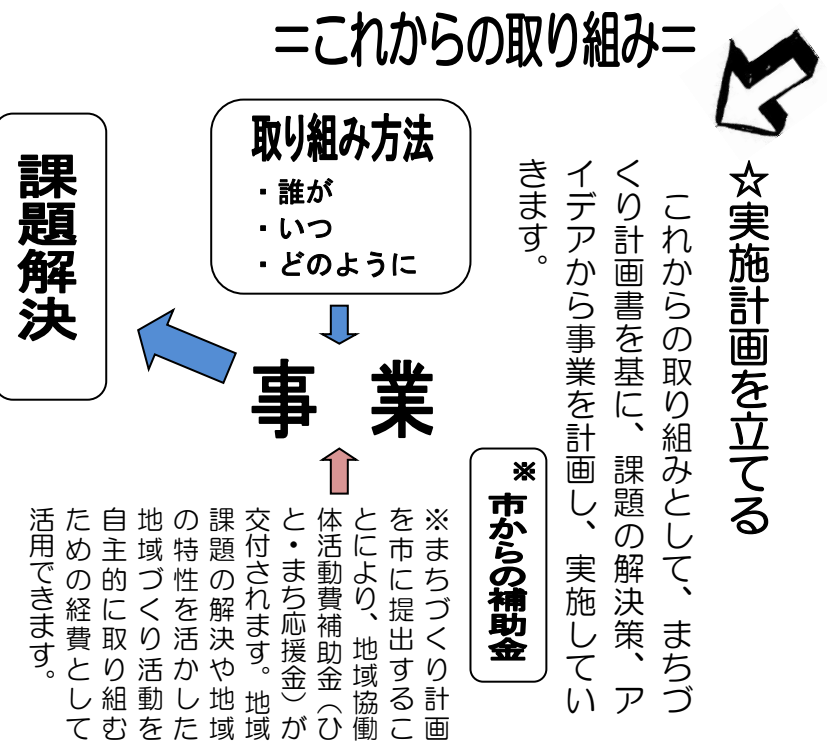
この素案は6月8日の理事会で審議され、承認後、まちづくり計画として市に提出する流れになっております。



- ◇計画策定の趣旨
 - ◇期間
 - ◇地域の現状
 - 人口の推移
 - 行政区別人口
 - ひとり暮らし、65歳以上高齢者世帯数
 - 猿沢小学校児童者数
 - 地域の主な施設
 - ◇地域の課題
 - ◇猿沢の将来像
 - ◇私たちの具体的な取り組み
- が記載されています

人口と世帯数			
平成28年4月末日現在			
前月比			
一関全体	人口	12万1000人	42
	男	5万8741人	48
	女	6万2259人	△6
	世帯数	4万5920世帯	126
大東地域	人口	1万4190人	△23
	男	6946人	△13
	女	7244人	△10
	世帯数	4958世帯	7
猿沢地区	人口	1791人	△1
	男	892人	△1
	女	899人	0
	世帯数	598世帯	2

※今月から毎月、一関市・大東・猿沢の人口と世帯数を掲載します。



旧猿中校舎利活用を考える

平成27年3月、卒業生3,776名を送り出した猿沢中学校が少子化のあおりを受け、閉校しました。

私たちはこれから、旧猿中校舎の利活用についても地域課題として検討していかなければなりません。多くの仲間との友情、先生や地域との絆を築いてくれたこの校舎を、猿沢の財産として一番有効な活用方法を考えていきたいものです。

これからご紹介する作品は、昨年、**大東中3年(猿沢出身)の菊池笑さん**が文集「いわいの子」に出品した作品です。「猿中への思い」が詰まったすばらしい作品を皆さんにご紹介したいと思います。

「PRIDE 2015」

暗いステージがライトで照らされる。私たち三年生にとって最後の文化祭、萩香祭が始まった。

大東中と猿沢中が統合したのは、去年のこと。統合の話は、一年生の時突然聞かされた。降ってわいたような話だった。中一の時、一度交流会をした。広い校内、一学年12人の猿中生にとっては、46人の仲間達がすごく大勢に見えた。私たちは、心も体も萎縮してしまった。そして、何が何だかわからないまま、統合の日を迎えた。

仲の良い友達とクラスが分かれた。猿中生の人としか話せなかった。毎日が緊張。異性と話すなんてなおさらできなかった。私たちのほとんどは、猿中の運動着を脱ごうとしなかった。それは、突然の統合で準備できなかったことや、猿中の運動着を着ることを認められていたからではない。プライドがあったからだ。猿中を忘れてしまうような気がして、申し訳ない気持ちだったのだ。そんな複雑な気持ちのまま二年生の日々は過ぎていった。

そして、三年生の初めての席替え。私は班長に立候補した。その頃はもう、クラスのみならず楽しく話すことができていたから。修学旅行、とにかく楽しかった。体育祭、猿中出身者の仲間が団長を務めた。三年生を中心に、一、二年生をリードしながら、学校全体で一つのものを成し遂げることの難しさと、でもそれ以上のすばらしさを味わった。どんどん大東中生になっていく。でも心の中では猿中のことを思い、悲しく寂しい気持ちを捨てられずにいた。

今年の総合学習のテーマは「地域とかがわる」だ。地域毎にふるさとの再発見の活動があった。私はこの時間が待ち遠しかった。また、あのメンバーだけで堂々と集まれた。先生方は、私たち猿沢地区が一番仲が良いとほめてくださった。私たちは統合なんて望んでいなかったのだから。このメンバーで卒業まで過ごしたかったのだから。総合学習は、私たち猿中出身者の団結力を再確認させ、ある意味、私たちをまた、後戻りさせた。

そして、秋。文化祭を迎えた。私は何と、劇の主役に抜擢された。長い台詞を覚え、劇ではソロで歌う場面も何度も出て来る。嬉しいような、面倒なような・・・。そんな文化祭の四日前になって、全校壁画に問題が見つかった。この前代未聞の出来事に、校長先生は「萩香祭中止する。」とまで言われた。私たちは、血の気が引いた。学級、学年、全校で話し合った。文化祭サブテーマ「本気が魅せる」だけが一人歩きしていることに気づいた。合唱練習遅れていく、提出物や家庭学習を出さない人がいる、学校生活のどこかにダラダラ感はなかったか、私たち三年生は必死で考え、話し合った。何が何でも萩香祭を実施したい、しなければならぬと本気で思った。それには理由があった。

私たちは、とにかく特別な学年だ。統合前の摺沢・渋民・曾慶各小学校の最後の卒業生、そして猿沢中の統合前を知る最後の学年なのだ。それぞれの母校の伝統と歴史への思いを劇に込めていた。地域の方々に見ていただくのはこの機会しかなかった。また、私たちが三年間で何を学び、何を考えたのか、一番に親に見てほしかった。大東中生として頑張る成長した姿を示したかったのかもしれない。

この劇の最後はダンス。それは、私たち猿中生が、閉校の年に踊り続けた「猿中プライド2013」。猿中最後を飾ったダンスを私たちが教え役になって大東中の三年生全員で踊った。私は嬉しかった。そして初めて、猿中も大東中もないのだと思えた。猿中は今でも私の心の中に、色褪せずに残っている。それはこれからだって同じ。しかも、大東中生として新たな思いでも負けないくらいできたんだから、むしろ幸せじゃないか。いつの間にか私たち猿中出身者も、大東中の運動着を着ている。何の違和感も何の悔しさもなく。

私は小心者だ。自分に自信もない。でも、新しい仲間との挑戦は、そんな私を成長させてくれた。猿中のプライドは、胸に深く刻まれている。消えることはない。誰だって胸の中に、それぞれのプライドがあるはずだ。人の行動力は「熱い思い」つまり「プライド」に支えられているのだと、この萩香祭を通して実感した。地域への誇り、母校への誇り、何よりも自分への誇りが自分を奮い立たせ、頑張らせる。「猿中プライド2013」に、新たに「大東中2015」が加わった。私の胸の中にある「プライド」をこれからも大切にして、どんどん新たなことに挑戦していきたいと思う。

ステージでスポットライトを浴びた。顔が火照った。仲間と踊った猿中最後のダンス。もう踊ることはないだろう。寂しい。でも、それ以上に清々しい思いで、幕が下がるステージ上で、私は頭を下げ続けていた。

